

1 はじめに

- 新しく現場に来た人の災害が多くあります。
- 現場には災害を防ぐためのルールがあります。
- ルールをよく覚えて、必ず守りましょう。
- もし危険を感じたら、ただちに作業を中止して下さい。



自分のために、家族のために、
みんなのために、安全を

あなただけが特別では
ありません。
ルールを守らなければ、
いつか災害にあって
しまいます。



日常の健康管理も大切です

- 健康診断はすすんで受けましょう。
- 血圧の高い人は、高所作業等の危険な作業は避けましょう。

2 整理整頓

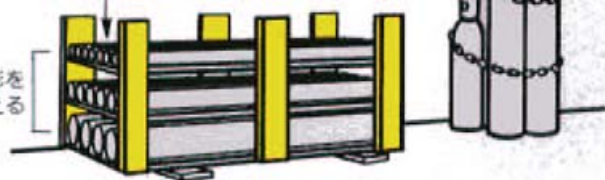
- 整理整頓とは、単なる片付けではありません。
次の作業が能率よく安全に出来るようにすることです。
- 毎日作業が終わったら、自分の作業場所をきれいに
しましょう。
- 材料や工具類は決められた場所に置きましょう。
- 物を投げたり、落したりしてはいけません。
- コーラやジュースの空缶はその都度分別してごみ箱
に入れましょう。

物の置き方は
平行、直角が
原則です

たおれやすいものは
しぼりつける

ころがるものには必ず
「止めもの」を

形を
そろえる



3 正しい服装

- きりっとした服装は無事故への入口です。
- 保護帽、安全靴を着用していますか。
- 作業に応じて、安全帯、保護メガネ、保護マスクなど
の用意は十分ですか。
- また保護具は常に点検して正しく使いましょう。
- 手ぬぐいを首に巻いたり、腰からたらすことはやめま
しょう。(回転物に巻き込まれる)



4 基本的事項

- 資格がないと出来ない仕事があります、無資格作業をしないで下さい。
- 指示された以外の仕事はしないでください。
- 安全設備を勝手に取り外さないこと。
- 仕事で外した設備は、元に戻すこと。
- 作業の手順を理解して必ず守ること。
- 自分からも危険な場所を把握して近寄らないこと。
- ヒヤリとしたこと、ハッと感じたことは、事務所や職長に言って下さい。
- 緊急避難の方法や警報について、よく知っておいて下さい。



5 立入禁止

- 現場には作業上生じた危険箇所があります。
- 危険な場所には「立入禁止」の標識がありますので絶対に入らないで下さい。
- 主な場所は次の通りです。

① 重機の移動範囲	⑤ 落石、崩壊危険箇所
② クレーン作業場所	⑥ 酸欠発生場所
③ 足場組立解体場所	⑦ 軌道車の走るところ
④ 型枠支保工組立解体場所	



6 高所作業車

- 高所作業車は表示された者が使用する。
- 平坦で水平な所で使用する。
- 垂直昇降型のものの、移動は乗った状態でしない。
- その日の作業範囲は区画する。
- 安全帯を使用する。



7 墜落災害の防止

- 墜落災害は、発生が一番多く、死亡原因の約4割をしめ、原因のトップとなっています。
- 身の丈以上の高い所では、安全な作業床を確保するか、安全帯を使用しましょう。
- 安全な作業床とは
 - ① 幅40cm以上
 - ② 手すりの設置
 - ③ 足場板の緊結
- 急いでいる時でも、近道をせずに、安全な通路を通りましょう。
- 安全設備は勝手に外さないで下さい。
- 作業上やむを得ず外すときは、担当職員の承認を受け、その指示に従って下さい。
- 作業前に墜落の恐れがないか確かめて下さい。
- 墜落の恐れがあれば、設備を改善するか、職長に申し出て下さい。



急斜面では
親綱を付け
安全帯を
使用して
下さい



荷上げの
じゃまでも
勝手に手す
りを外さ
ないで

災害事例

- 発生状況
足場組立中、材料が足りなくなったので、材料を取りに足場をつたって下りようとして手を滑らせて墜落した。



- 防止対策
足場の昇降階段を通行する。

8 脚立作業

- 単独使用はなるべくしない。
- 最上段の使用はしない。

足場板は
3点支持で

足場板を
緊結する

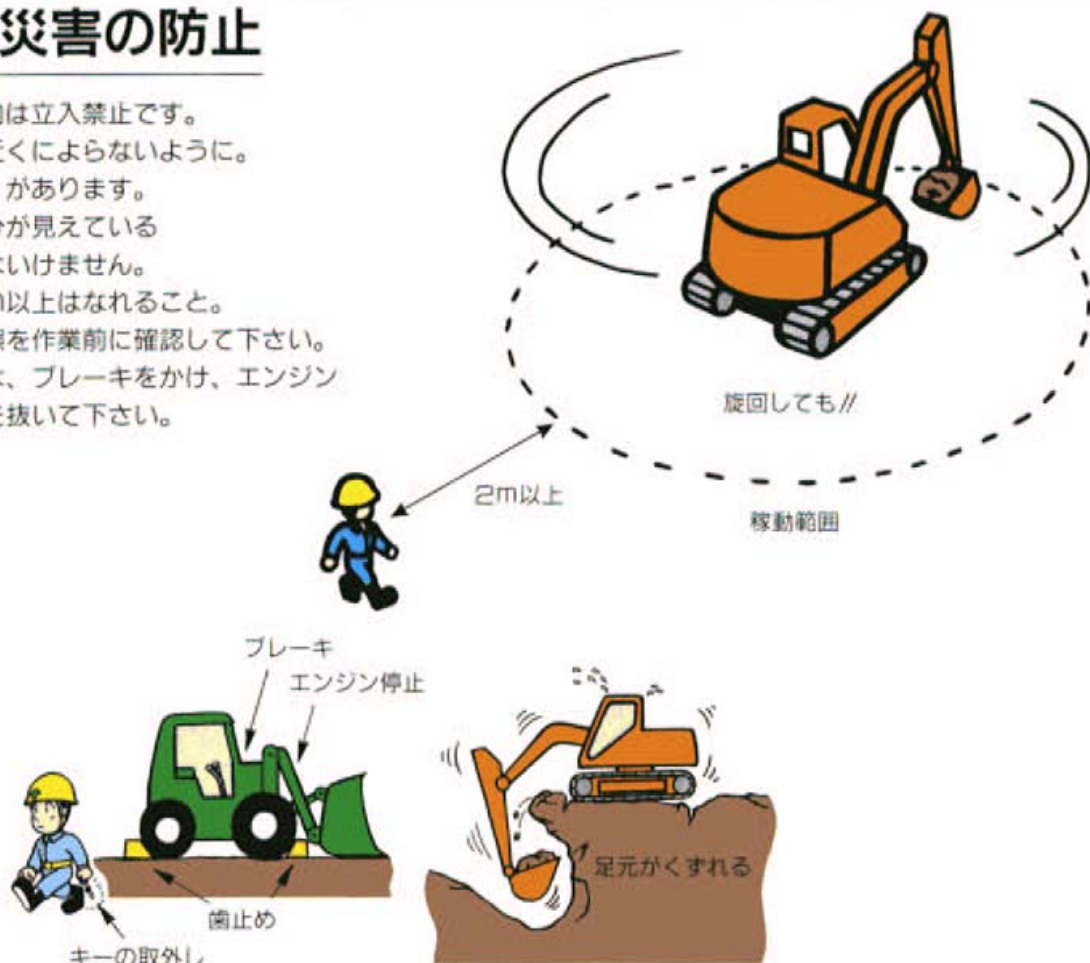
開脚角度は
75°以下

開き止め
金具をする



9 重機災害の防止

- 機械の動く範囲内は立入禁止です。
- 誤操作を考えて近くによらないように。
- 重機には「死角」があります。
運転者からは自分が見えている
だろうと思っははいけません。
- 機械から最低2m以上はなれること。
- 法肩、路盤の状態を作業前に確認して下さい。
- 機械を離れる時は、ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜いて下さい。



災害事例

●発生状況

稼動しているバックホーの近くを通り抜けようとした時、急にバックホーが旋回したため、カウンターウエイトと資材との間にはさまれた。



●防止対策

重機の稼動する範囲内には立入らない。

10 土砂崩壊災害の防止

- 作業開始前に地山の点検を行いましょう。特に雨の後は崩壊しやすいので注意が必要です。
- 異常な湧水や、亀裂、音があったら、すぐ逃げて下さい。



法肩に土砂や材料を置かないで下さい。

11 クレーン災害の防止



中抜けはないか

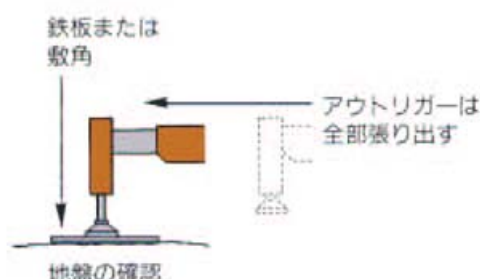


絞りはよいか



玉掛ワイヤーは大丈夫ですか

- 正しい玉掛を行いましょう。
- 玉掛資格者が作業しましょう。
- 合図は、合図者を決め、正しくはっきりと行いましょう。
- 吊り荷は地面から離れる時に振れます。安全な位置まで離れてから巻き上げの合図をしましょう。
- 荷降ろしの時も、あわてて振れている吊り荷に近づかないようにしましょう。
- 吊り荷の下には立入らないようにしましょう。
- 玉掛者はクレーン運転者に無理な作業を要求しないで下さい。
- 転倒防止のため、クレーンは正しく据えましょう。
- 急激な吊り上げ、旋回はやめましょう。



12 感電災害の防止

- 電気設備の扱いは、電気担当者にまかせ、一般の人は絶対に手を出さないで下さい。
- 電動工具を使うときは、コードの破損などの絶縁を調べ、アースを接続して使いましょう。
- アーク溶接作業は有資格者が行いましょう。
- 電動工具は水たまりのあるところで使ってはいけません。



13 火災の防止

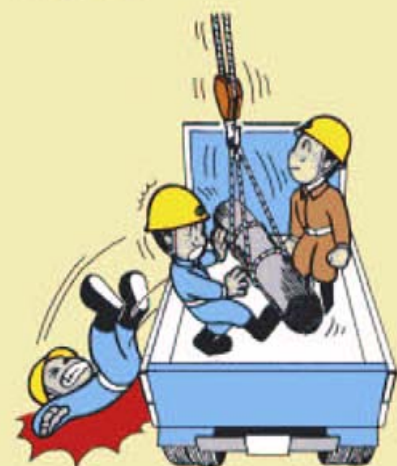
- 塗装などに使う溶剤(シンナー類)は大変引火性が高く、近くで火気を使用したり、タバコを吸ったりしないで下さい。
- 発泡ウレタンは一度火がつくと燃え上がり有毒ガスを発生しますので、近くで火気を使用しないこと。
- 火を使う時はすべて元請の許可を受け必ず消火器や消火用水を用意し、防火の責任者を決めて下さい。
- タバコは指定された場所で吸いましょう。
- 消火器のある場所を覚えておきましょう。



災害事例

●発生状況

トラックから鉄筋を荷卸しようとして吊り上げた時、鉄筋が振れて当たり、トラックの荷台から下へ落ちた。



●防止対策

クレーンのフックは吊り荷の重心の真上とし、吊り上げ時には荷から離れる。

14 メタンガスの爆発・酸欠・有機溶剤中毒の防止

- ピット、マンホールなど酸欠の恐れのある場所へ入る前には、酸素濃度を測定しましょう。
- シンナーなどの有機溶剤は中毒をおこします。吹付・塗装などの作業ではマスクを使用して下さい。
- 酸欠や有機溶剤中毒となる恐れのある時は換気を行って下さい。
- メタンガスの発生する現場では、発火器具の持込みをしないで下さい。



15 職業病の防止——じん肺、振動障害

- 粉じんを長い時間吸い続けると、肺に粉じんが溜りじん肺となります。じん肺を防ぐために防じんマスクを必ず着用しましょう。
- 振動工具を長い時間使用すると、指先のしびれなどの振動障害となります。振動障害を防ぐために防振手袋を着用し防振装置付工具を使用しましょう。



16 第三者への配慮

- 工事現場の近隣の人に迷惑を掛けない様にして下さい。
- 現場周辺を歩く人や車の人にケガや迷惑を掛けない様にして下さい。



17 万一事故が発生したら

- 職長や監督員に知らせ、指示に従って下さい。
- 普段から避難経路を確認しておき火災などの発生の場合は警報にしたがって避難して下さい。
- 同僚が急に倒れ、酸欠状態によるものと思われるときは、あわてて助けにいかないで下さい。
- 万一ケガをしたら、1人で病院に行かず必ず事務所にすぐ報告して下さい。

